

基礎研修のオンライン開催が運営に及ぼす影響についての考察 -運営スタッフのインタビューから見てきたこと-

静岡県社会福祉士会 生涯研修委員会(医療法人社団一穂会 奥苑文雄)

要旨

静岡県社会福祉士会で運営する基礎研修は、新型コロナウイルスの流行とそれに伴う感染防止対応のため、2020年度からの3年間ほぼオンライン形式で開催した。それはただ ICT 機器を使用して開催するというものではなく、研修運営のあり方にも影響を与えることとなった。例えば、オンライン開催前は研修運営スタッフの多くが会場設営、出欠や提出物の確認等、講義が支障なく開催されることに主眼を置き携わっていたが、オンライン開催では演習のファシリテート等、受講者が研修の目的を達成できるように携わっていくことが求められた。各スタッフが主体的に関与した結果、スタッフ自身の意識にどのような変化が生じ、運営に影響が及ぼされたのかを分析することで、今後の研修運営における課題を明らかにするため本研究を実施した。

1 目的

本研究は基礎研修をオンライン開催としたことで、「運営スタッフにどのような変化があったのか?」、「変化したスタッフが運営に携わることが研修にどのような影響を及ぼしたのか?」について、講師とスタッフへインタビューして結果を検証し、今後の研修運営のあり方を考える上での課題を明らかにするために行った。

2 方法

生涯研修センター長・生涯研修委員会委員長・講師6名へ個別インタビューを、基礎研修スタッフ5名へグループインタビューを行い、研修運営の変化を確認した。インタビュー形式は半構造化面接とした。倫理的配慮として、事前にオンライン開催前後でスタッフの動きに変化を感じたか聞くことを対象者へ提示、同意を得た上で行った。インタビューの実施と記録には Zoom を使用し、記録した内容をテキストデータに起こした。データは KH Coder を用いて単語を抽出し、出現数5回以上の名詞、動詞、形容詞について、単語の関連性を把握するため共起ネットワーク図を作成し、講師、スタッフ間の発言の関係性を把握するため対応分析を行った。

3 結果

共起ネットワーク図からは、演習のファシリテートに関連する発言、会場へ行かないことでの時間的メリットに関連する発言が多く読み取れた。対応分析の結果について、講師の発言ではスタッフが講義を円滑に進行できるよう深く関わっていたこと、演習のファシリテートの必要性を認識

していたと感じられたこと、講師とは違う役割で研修を運営できていたといった内容に特徴があった。スタッフの発言では、ファシリテーターを必要数配置することの重要性や会場移動がないことのメリット、習得したオンライン開催のスキル活用といった内容に特徴があった。また、講師が発した単語群とスタッフが發した単語群の布置が原点を中心に点対象となった。

4 考察

講師、スタッフの発言から、演習をファシリテートすることの必要性、重要性をスタッフが理解し、主体的に関与していたことは視えた。一方、対応分析にて単語群の布置が点対象となったことで、受講者が研修の効果を得ることを目的とする講師と、講義以外の部分も含め円滑な研修運営を目的とするスタッフに意識の違いが存在し、異なる思いによる発言が関係性の差を広げていると考察した。

5 まとめ

より効果的な研修を実施するには、スタッフの主体的な関りだけではなく、実施者全体が一つの目標に向いていることも重要である。その意味で、講師とスタッフの意識に相違があるとみられることは、運営上の課題の一つであると考えた。

参考文献

末吉美喜著「テキストマイニング入門 Excel と KH Coder で分かるデータ分析」オーム社(2019)